第28回 日本在宅医療学会学術集会

武蔵野市における医療・介護・福祉連携の実際とICTを活用してみての課題

2017年9月17日

薬局ルンルンファーマシー
藤澤 節子
（薬剤師、主任介護支援専門員）

目次

1. はじめに

2. 武蔵野市の現状

3. 北多摩南部保健医療圏

4. 退院。そして在宅へ （動画）

5. 在宅医療・緩和ケアカンファレンス

6. 今後について

1. はじめに

薬局ルンルンファーマシー

薬局、居宅介護支援事業所、いきいきサロン

在宅医療・緩和ケアカンファレンス、ICT事業など

下記の2店舗など様々な活動や事業を展開している

■ 薬局ルンルンファーマシー
所在地　：　東京都武蔵野市中町

■ 薬局ルンルンファーマシー　サン
所在地　：　東京都武蔵野市境

ルンルンファーマシー

ルンルンちゃん

薬局ルンルンファーマシーのマスコットキャラクターで

『アンパンマン』の作家で有名な『やなせたかし氏』作の

在宅推進に利用許可をいただいたキャラクター

1. はじめに

薬局ルンルンファーマシー代表

藤澤 節子 （薬剤師、主任介護支援専門員）

■ 主な職歴

・在宅医療・緩和ケアカンファレンス ： 立上メンバー

・NPO法人DANKAIプロジェクト ： 副理事長

・武蔵野薬剤師会 ： 監事

・武蔵野市認定審査会 ： 会長

・武蔵野市居宅介護支援事業所連絡会 ：前会長

■ 主な著書

・介護者が知っておきたい薬のはたらきとつかい方 （出版：中央法規出版）

・介護職のための医療的行為＆薬の基本完全ガイド （共著：ひかりのくに）

・介護職員基礎研修テキスト（全7巻） （共著：全国社会福祉協議会）

・高齢者に多い病気と薬の基礎知識 （共著：ひかりのくに）

1. はじめに

薬局ルンルンファーマシー代表
藤澤 節子

(薬剤師、主任介護支援専門員)

■現職
- NPO法人DANKAIプロジェクト　副理事長
- 武蔵野薬剤師会　監事
- 武蔵野市認定審査会会長
- 武蔵野市居宅介護支援事業所連絡会前会長

■主な著書

『介護者が知っておきたい薬のはたらきとつかい方』（中央法規出版）

『介護職のための医療的行為＆薬の基本完全ガイド』共著（ひかりのくに）

『介護職員基礎研修テキスト（全７巻）』共著（全国社会福祉協議会）

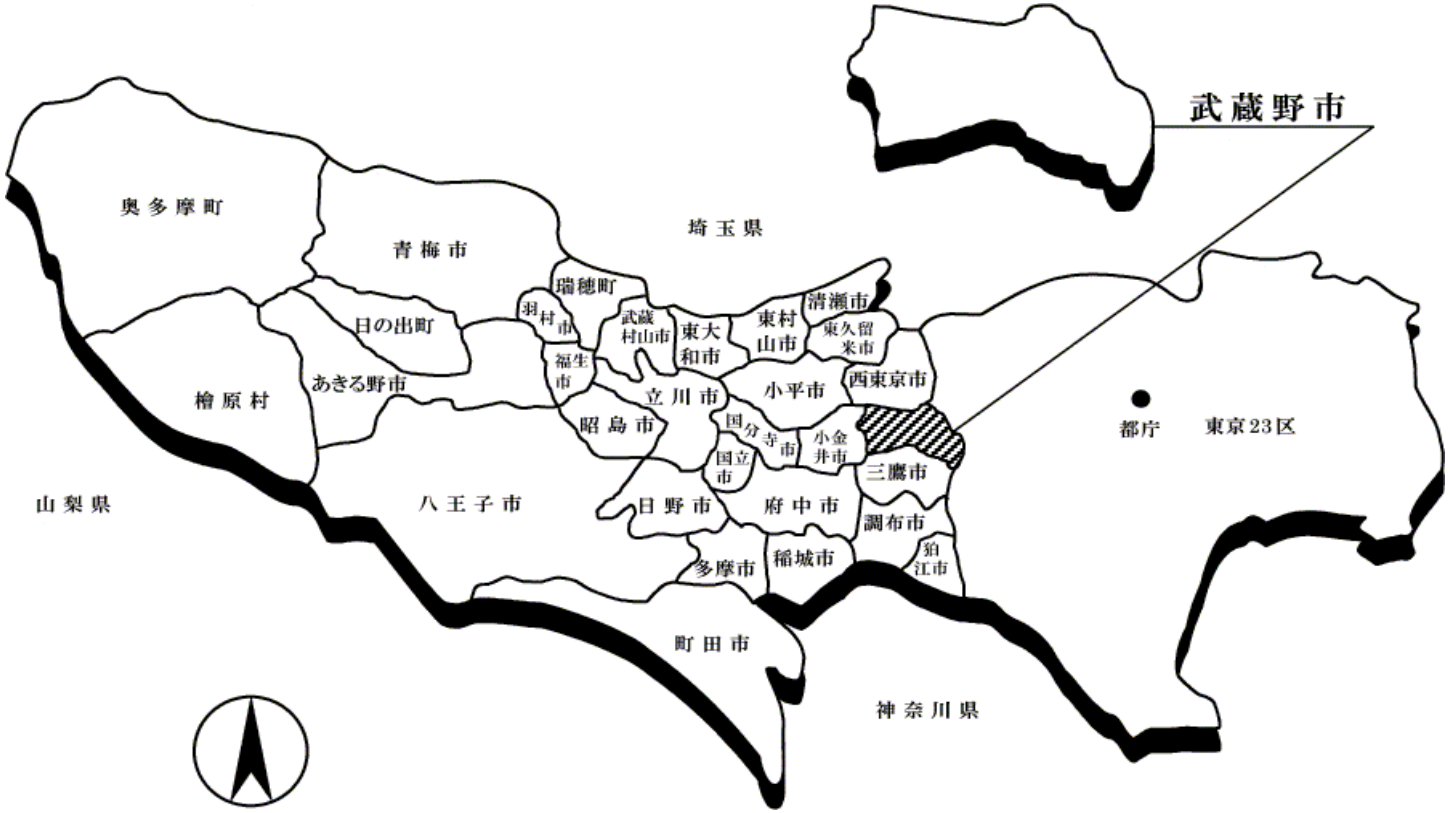
高齢者に多い病気と薬の基礎知識　共著（ひかりのくに）

登録販売者・・・・（中央法規出版）

2. 武蔵野市の現状

武蔵野市
Musashino-city

東京都特別区の西部に接し、副都心（新宿）から約12Kmに位置。
人口14万4，606人（2017年4/1現在）。面積10．98㎢。
JRの吉祥寺駅・三鷹駅・武蔵境駅の3駅と井の頭線という交通アクセス。
緑豊かな住宅都市と教育・福祉・健康・文化・スポーツ・情報などの
生活型産業が高度に集積する「生活核都市」。
吉祥寺は「住んでみたい街」としてそのイメージが定着している。



2. 武蔵野市の現状

2025年に向けて武蔵野市が目指す高齢者の姿とまちづくり

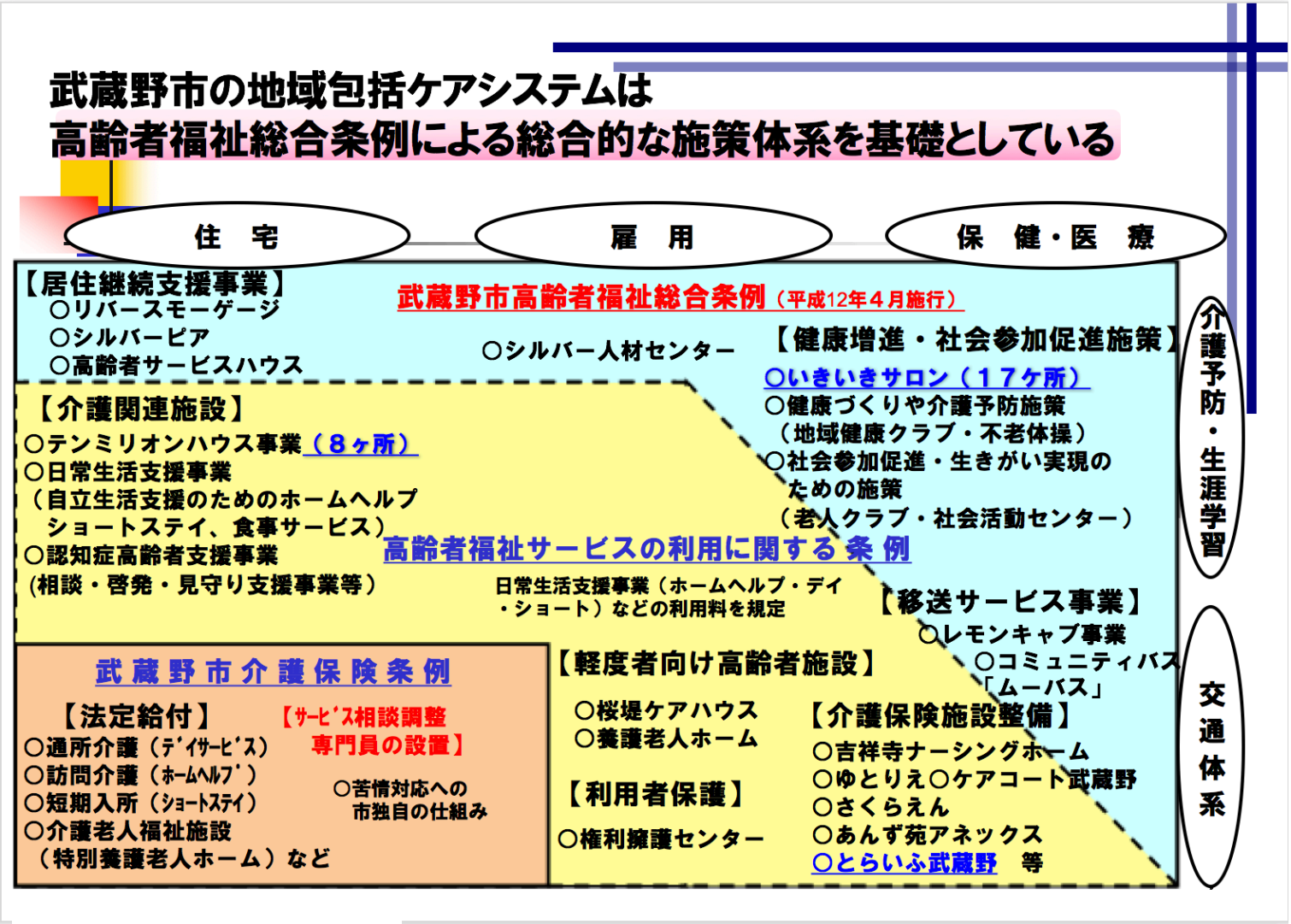
武蔵野市
介護保険
事業計画
6th

- いつまでもいきいきと健康に
- ひとり暮らしでも
- 認知症になっても
- 中・重度の要介護状態になっても

住み慣れた地域で生活を継続できる

※武蔵野市より提供

2. 武蔵野市の現状



※武蔵野市より提供

2. 武蔵野市の現状

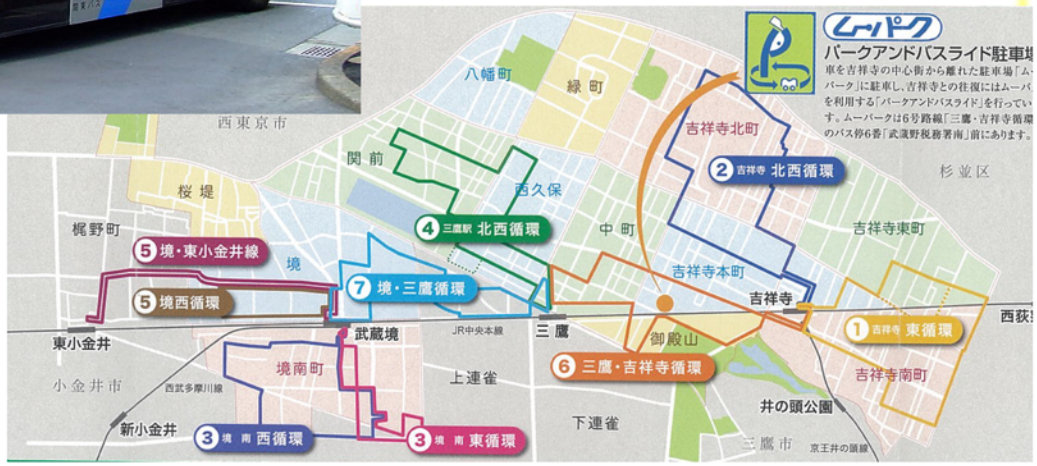
いつまでもいきいきと健康に

ムーバス　全国初のコミュニティバス

■地域の足として

バス路線の空白地帯の不便を解消、
高齢者や障害者や子育て世代などが
気軽に“まち”に出られるように。

- 高齢者の歩行距離を考慮して
  バス停の間隔は２００m。
- 乗降口には乗降補助ステップ、
  1段目の高さは１５cm。
- リフト付バスも少しずつ導入。



1995年11月から運航開始し、現在は7路線9ルート。2012年7月に累計乗車数3,000万人を突破。車両とバス停は市が用意、関東バス(株)と小田急バス(株)が運行。

※武蔵野市より提供

2. 武蔵野市の現状

いつまでも長くいきいきと健康に

レモンキャブ

■誰もが気軽に外出できるまちを目指して、外出が困難な方のためにできた移送サービス

～ 運転手は同じまちに住んでいる人 ～
運転手をつとめるのは、商店主を中心とした地域の有償ボランティアです。
共助による地域を支えるサービスを提供。

～ ご利用について ～

◆ ご利用できる方

高齢者や身体に障害を持つ方でバスやタクシーなどの利用が困難な市民の方

◆ 料金

30分ごとに800円
利用会員登録（年会費1,000円）が必要です。
登録手続きは武蔵野市民社会福祉協議会でできます。

～ 福祉型軽自動車を使用 ～

使用している車両は、身体の自由の利かない人にも使いやすいように配慮された福祉型車両です。

≪お問い合わせ先≫武蔵野市民社会福祉協議会
吉祥寺北町１-９-１（１階）℡ 23-0701

※武蔵野市より提供

2. 武蔵野市の現状

28年度新規事業→平成29年度LEVEL UP

近所(K)・支え合い(S)・健康づくり(K)

いきいきサロン

28年7月事業開始。
現在、市内に17カ所。

2025年へ向けた“まちぐるみの支え合いの仕組みづくり”を実現するために・・・

地域住民団体やNPO法人・民間事業者等による、地域での介護予防や健康寿命の延伸を目的とした、定期的に継続して実施する「通いの場」づくりに対し、開設及び運営に係る費用を補助。

◆団体等の活動内容◆
- ○概ね65歳以上の高齢者（登録制。無断欠席時には安否確認を行う。）
- ○週１回以上２時間程度
- ○５名以上集まる場所
- ○介護予防・認知症予防のプログラム（脳トレや軽体操等）を実施

～ 補助内容 ～

◎運営事業費（消耗品費・講師謝礼等のプログラムに必要な経費）年間上限20万円
※多世代交流加算（乳幼児や青少年と交流するプログラムを実施した場合に年間上限5万円加算）
※共生社会推進加算（65歳未満の障害者等と交流プログラムを実施した場合に年間上限5万円加算）
◎開設準備事業費（備品の購入等、開設時に必要とされる経費10万円上限）
◎活動拠点整備事業費（建物等の修繕等、拠点整備に必要とされる経費の1/2補助30万円上限）

※武蔵野市より提供

2. 武蔵野市の現状

介護・看護の人材確保に向けて

■「ケアリンピック武蔵野2015～輝け！武蔵野市の介護と看護～」(12/12開催)

【平成27年度新規事業】

武蔵野市地域で働く介護職員・看護職員が夢と誇りを持って働き続けられるために

在宅医療介護連携や介護サービスの先進的な取り組み31事例を発表

介護職種・訪問看護職等への就職イベント

武蔵野市民の生活を支え続けた介護職員への「永年従事者表彰」

介護保険制度施行後15年。介護人材の確保に向けて、新規事業を開催！！(介護・医療事業者・大学等で構成する実行委員会を6/4に設置。約800名が参加)

■初任者研修受講料をキャッシュバックする「ケアキャリア21」

【武蔵野市福祉公社主催の介護職員初任者研修（旧ヘルパー2級資格）について、市民対象介護事業所で実務に従事した場合は、受講料の８割をキャッシュバックする制度】

※武蔵野市より提供

2. 武蔵野市の現状

武蔵野市は、

・人口約14万人
・行政として福祉に力を入れいる。
・北多摩南部保健医療圏に所属し、地域の拠点病院である武蔵野赤十字病院がある。
・北多摩南部保健医療圏の拠点病院が中心となり、
　病院・医療者・介護者の顔の見える連携を目指し、定期的な集まりが開催されている。
・地域の関係者が200人弱登録している在宅医療・緩和ケアカンファレンス
・2015年12月には、医療者・介護者・行政が一緒となりケアリンピックを開催し、
　一般市民を中心に約1,500人の来場の実績がある。

2. 武蔵野市の現状

※武蔵野市医師会より提供

武蔵野市全ユーザーグループ
（MCS自由グループ）

医師	６４
歯科医師	３８
薬剤師	７６
訪問看護･リハ	９３
介護支援専門員	１０１
訪問介護	６４
在宅介護支援センター	２０
地域包括支援センター	１０
行政	６
その他	２１

合計　４９３名

※武蔵野市内の６割以上の事業所が参加

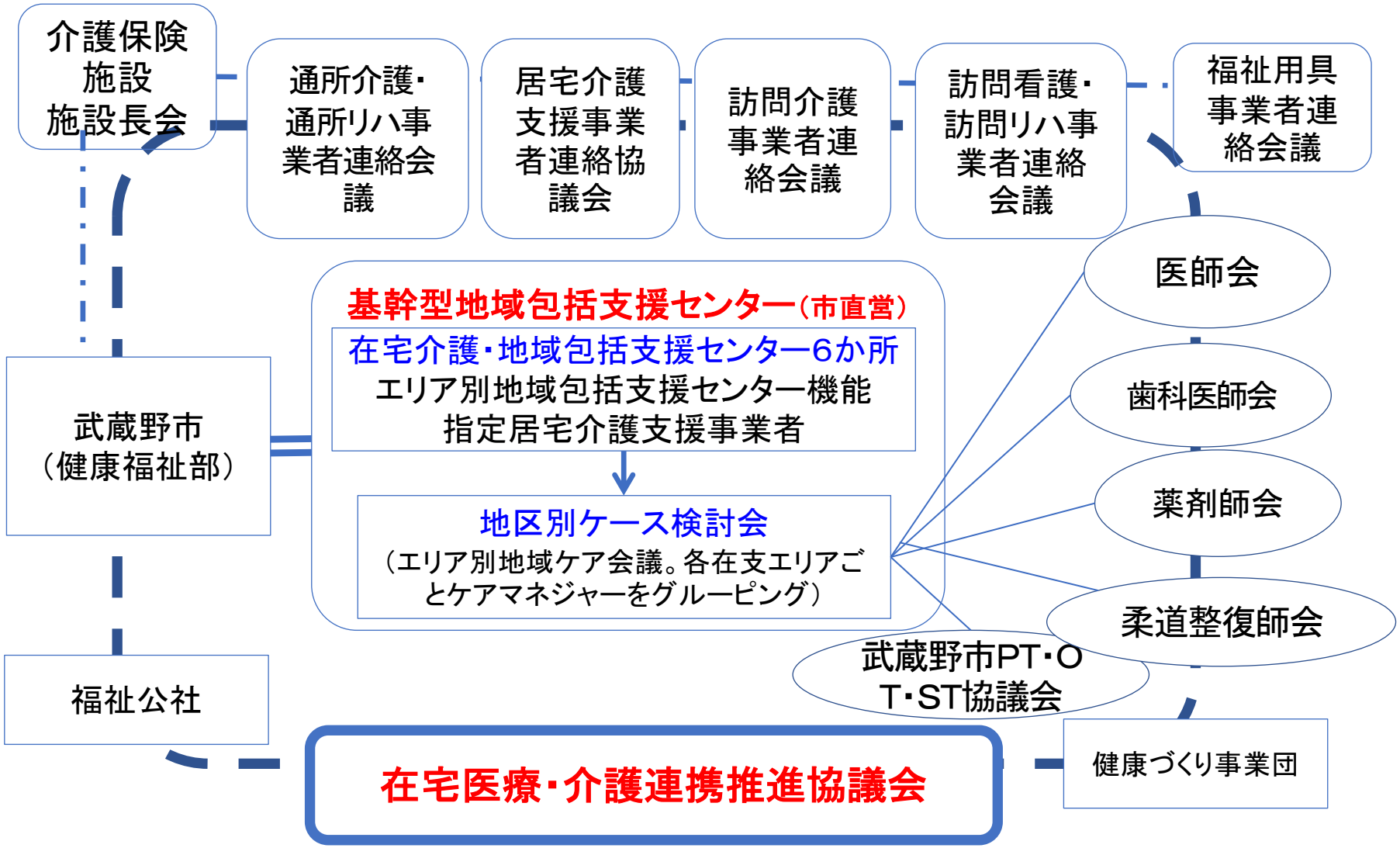
武蔵野市における医療と介護の連携の取り組み

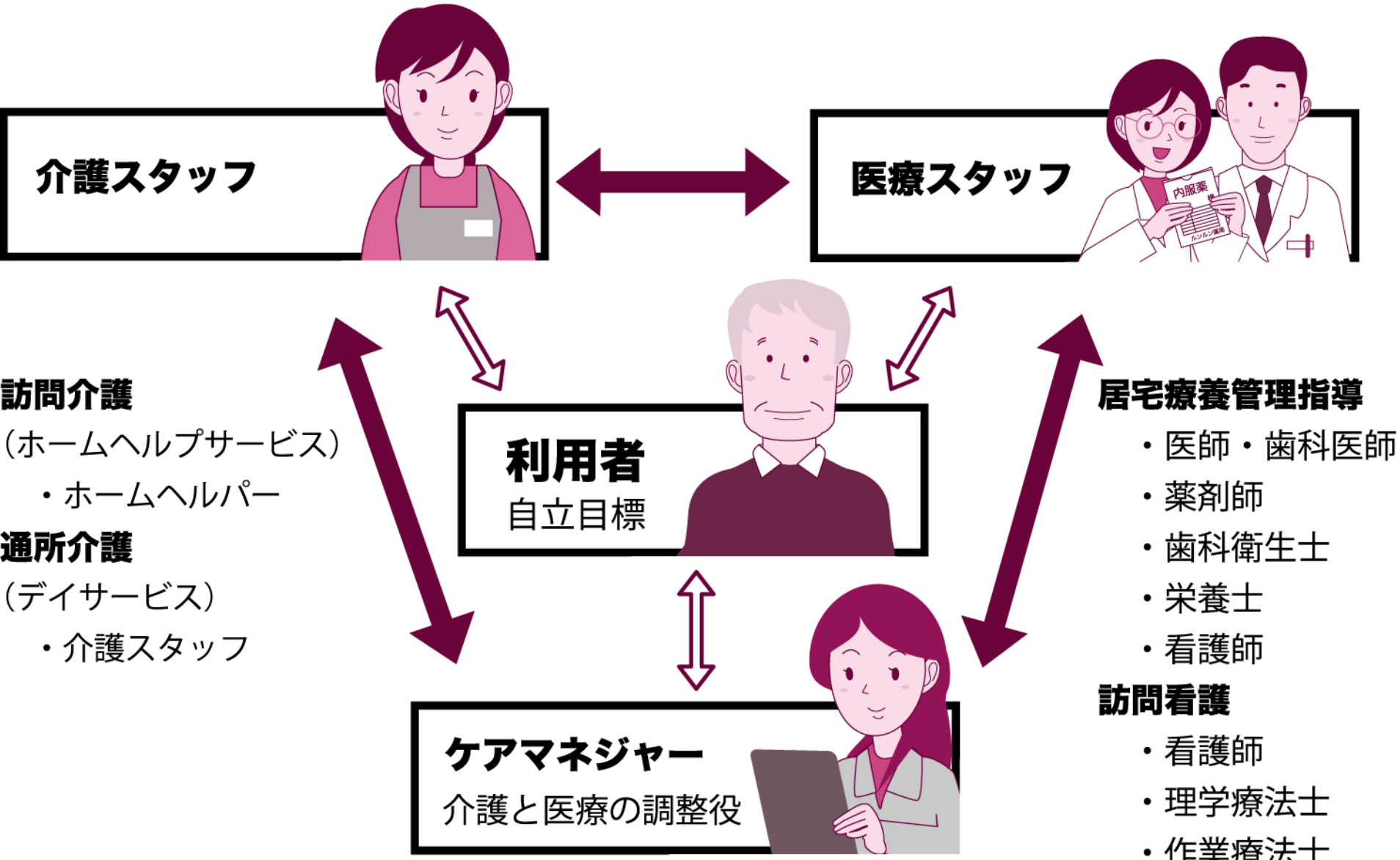
「顔の見える関係」から“利用者本位”“さらなる信頼関係”へ！

- 2000年：武蔵野市独自の連携様式(介護情報提供書等)
- 2001年：地区別ケース検討会（エリア別地域ケア会議）における医師会の先生を講師とする研修会と事例検討
- 2008年：「脳卒中ネットワーク」の「脳卒中地域連携パス」（地域連携診療計画書）による急性期・回復期から在宅介護に至るまでの医療と介護の連携
- 2011年：「認知症連携シート」による在宅相談機関・もの忘れ相談医・専門病院・かかりつけ医の連携
- 2014年：在宅療養継続支援のための「医療機関一時入院連携制度」（バックベッド）
- 2015年:ICT（タブレット端末）による主治医・医療職・介護職の連携　など

15

武蔵野市介護保険事業者支援・連携図



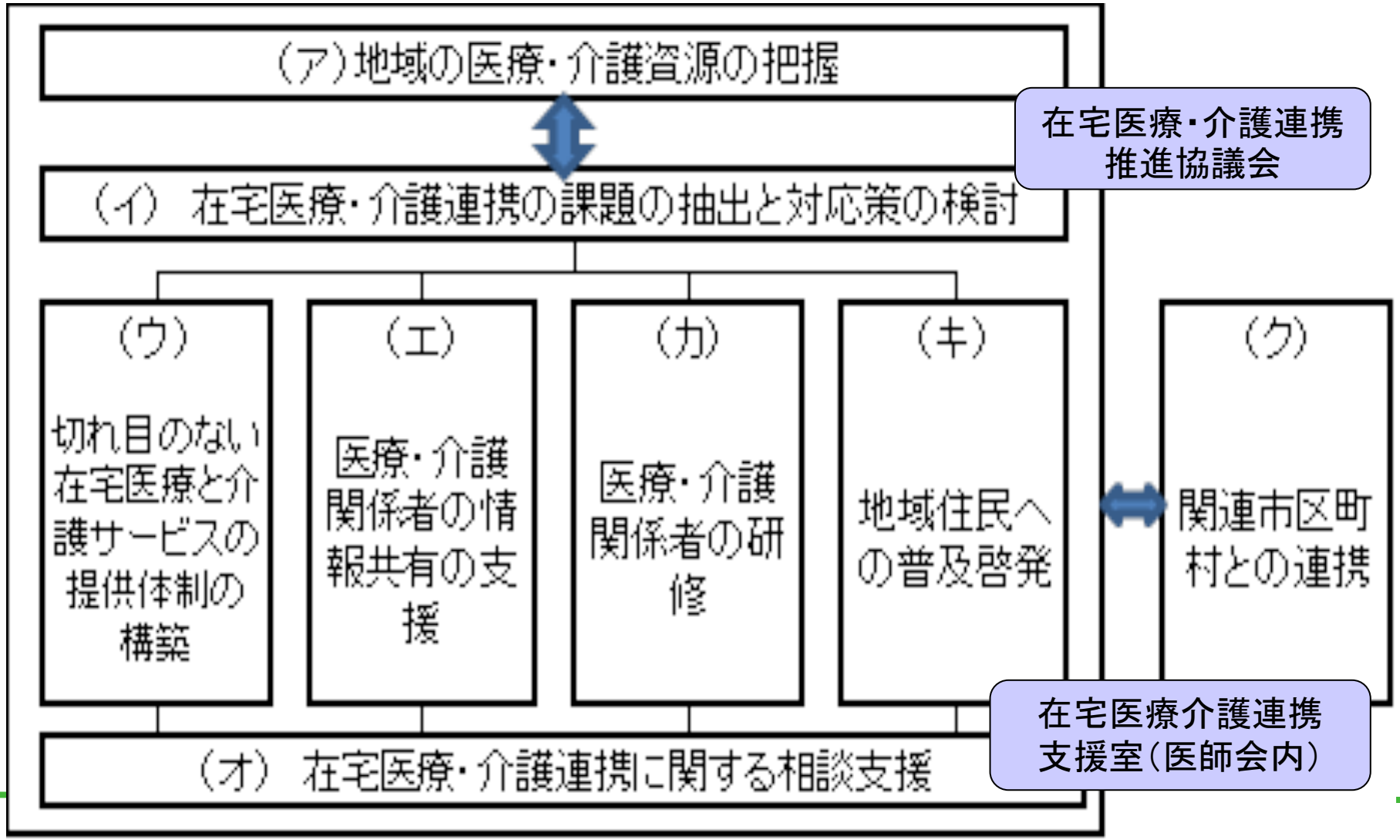

介護スタッフ
医療スタッフ
内服薬
訪問介護
（ホームヘルプサービス）
・ホームヘルパー
通所介護
（デイサービス）
・介護スタッフ
利用者
自立目標
居宅療養管理指導
・医師・歯科医師
・薬剤師
・歯科衛生士
・栄養士
・看護師
訪問看護
・看護師
・理学療法士
・作業療法士
ケアマネジャー
介護と医療の調整役

武蔵野市における在宅医療・介護連携推進事業の取組み方針

	在宅医療・介護連携推進事業の事業項目	武蔵野市の取組み方針
ア	地域医療・介護サービス資源の把握	・医療・介護サービスマップの作成 ・武蔵野市医師会作成の医療機関総合案内の活用 ・武蔵野赤十字病院作成のリハビリ資源マップの活用 ・武蔵野市介護サービス事業者リストの活用
イ	在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応の協議	・多職種連携のための全市的組織「在宅支援連絡会」を「在宅医療・介護連携推進協議会」へ改組
ウ	切れ目のない在宅医療と介護サービスの提供体制の構築推進	・ICTの活用によるチーム在宅医療体制・チームケアの推進 ・訪問看護ステーションとケアマネジャーとの連携強化のための訪問看護ステーションへの補助金の新設
エ	在宅医療・介護サービス等の情報の共有支援	・脳卒中地域連携パス、もの忘れ相談シート等の活用 ・退院時支援の課題抽出、退院時カンファレンスの実施率向上
オ	在宅医療・介護連携に関する相談支援	・武蔵野市医師会と市の協議により、平成27年4月に武蔵野市医師会に「在宅医療・介護連携支援室」を設置
カ	在宅医療・介護関係者の研修	・地区別ケース検討会、テーマ別研修会、地域ケア会議の活用 ・多職種合同研修会、全体研修会の活用
キ	地域住民への普及啓発	・健康づくり事業団による情報提供・普及啓発 ・講演会・シンポジウム等の実施
ク	二次医療圏・関係市区町村の連携	・東京都多摩府中保健所等との連携による圏域のネットワーク強化

在宅医療・介護連携推進事業 8事業の関連図

（ウ）（エ）（カ）（キ）は具体的検討をする部会を設置



在宅医療介護連携支援室【武蔵野市医師会館内に設置】

医療・介護・福祉関係機関の皆様へ

武蔵野市在宅医療介護連携支援室

平成 27 年７月１日より、医療機関や介護関係者の各種サービスに関する相談窓口として、「武蔵野市在宅医療介護連携支援室」を武蔵野市医師会館内に開設しました。

この事業は、平成 27 年度から介護保険法の地域支援事業にて制度化された「在宅医療・介護連携推進事業」の一つである「在宅医療・介護連携に関する相談支援事業」として実施します。

武蔵野市は、武蔵野市医師会の協力のもと、医療と介護の関係機関や多職種連携を推進し、市民の在宅療養生活を支援します。

【介護関係事業者】
ケアマネジャー、訪問介護、訪問看護、訪問リハ、通所施設、介護老人保健施設　等

【医療関係】
病院・診療所
歯科診療所・薬局　等

地域包括支援センター
在宅介護支援センター

〇総合相談支援業務
〇権利擁護業務
〇包括的・継続的ケアマネジメント業務
　地域ケア会議の開催、ケアマネジャー支援
　支援困難事例等への助言
〇介護予防ケアマネジメント業務　など

⟷

在宅医療介護連携支援室

〇医療機関に関する相談・紹介・調整
〇往診・訪問診療に関する情報提供
〇在宅で療養する市民の入院調整
〇医療機関への介護サービスに関する情報提供　など

●医療、介護関係者からの相談に対応します。
●地域包括支援センター・在宅介護支援センターと連携して対応します。
●ICT（MCS）の利用に関するサポートをします。

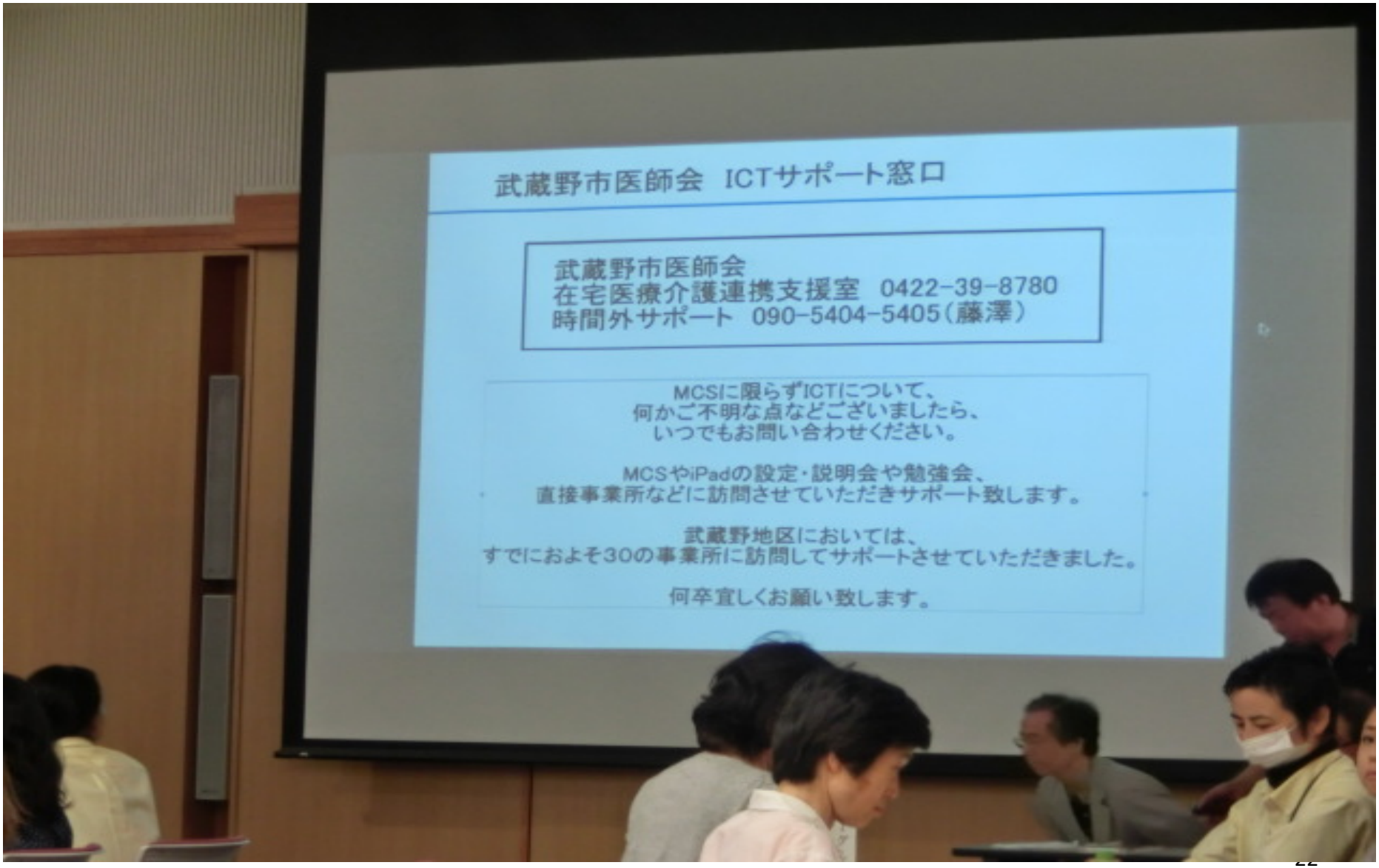
例えば…こんな相談をお受けします。
〇在宅医療を希望する方の相談を受けたけれど、訪問してくれる医療機関を調べたい。
〇退院してくる方の在宅療養について相談したい。
〇ＭＣＳの操作方法を教えてほしい。
〇訪問してくれる歯科医師や薬剤師を教えてほしい。　等

相談内容に応じ医療機関や事業所等へ訪問します。
事前にご相談ください。

相談日	月・火・木・金
相談時間	９時～17 時
電話番号	０４２２－３９－８７８０
ＦＡＸ	０４２２－３９－８７８１
E-mail	musashi-renkei@iaa.itkeeper.ne.jp
相談担当	社会福祉士／介護支援専門員　石井
	ICT サポート担当　上村

医師会・ケアマネ事業者・訪問看護ステーション・訪問介護事業者・通所介護事業者・武蔵野市の協働によるによる「ICT連携関係者会議」

ICT医療介護連携の推進へ向け医師会に「ICTサポート窓口」を設置



3. 北多摩南部保健医療圏

東京都武蔵野市、三鷹市、小金井市、調布市、狛江市、府中市の6市。
人口100万1，519人（2012年のデータ）。面積95．82㎢。
一次保健医療圏は各市区町村単位となり、二次保健医療圏は東京都となる。

4. 退院。そして、在宅へ

動画

武蔵野赤十字病院での
症例検討会

杏林大学での研修会

医師・薬剤師や訪問看護師
などの意見交換会

活発な討論が行われている

5. 在宅医療・緩和ケアカンファレンス

武蔵野赤十字病院での
症例検討会
杏林大学で
研修会 など

医師・薬剤師・訪問看護師などの
意見交換会活発な討論が行われいる

5. 在宅医療・緩和ケアカンファレンス

第18回 症例検討会のお知らせ

【今回のテーマ】
『こんな時、声をかけて♡！』
一緒に作ろう！
専門職に対するチェックリスト

新人の皆さん
当カンファレンスの
雰囲気を
体験してみませんか？

例えば・・・
☑ １回の食事で３回以上むせたら、○○に紹介してほしい！
など専門職として他の職種や事業所の方々に知ってほしいことがたくさんあると思います。
・今回の症例検討会では、**「こんな時に、専門職に相談してほしいな・・・と感じること」**について一緒に考えるための多職種/多事業所混合のグループワークを行います。
・多職種や多事業所の支援者が集まる研修に、今まで参加する機会がなかった方、これを機に参加してみませんか？

【在宅医療・緩和ケアカンファレンス　症例検討会が目指す3つの“場”創り】
1. 気軽に相談できる場
2. 他事業所・施設・病院を身近に感じられる場
3. 他職種のことを一層理解できる場

在宅医療・緩和ケアカンファレンスは、2009年に設立して以来、“医療・介護・福祉連携”についてひたすら向き合ってきた団体です。

日　　時：平成28年11月17日（木）19時～
会　　場：武蔵野赤十字病院　山崎記念講堂
参加資格：在宅、病院問わず、医療・福祉・介護に携わっている方すべて（初めて参加される方、大歓迎です！）
参 加 費：無　料
問合せ先：武蔵野赤十字病院　医療連携センター　担当　佐野

【申込方法】
メールでの申込のみお受けいたします。
- 氏　名（必須）
- 職　種（必須）
- 勤務先
- 登録可能なメールアドレス
（会の情報などを送ります。）

締め切り
11/10まで

担当　佐野（さの）　までお送りください。
アドレス：renkei@musashino.jrc.or.jp
※申込後、受講書を返信いたします。当日は、受講書をお持ちください。

【アクセス】
JR中央線　武蔵境駅　から徒歩10分

会場へは、公共交通機関にてお越しください。

※　定員：80名（申込順）
定員超過となり次第、申込を締め切らせていただきます。
お早めにお申し込みください。

【共催】 在宅医療・緩和ケアカンファレンス　　武蔵野赤十字病院
本研修会は、「東京都　地域がん診療連携推進事業」の一環として開催しています。

他職種の困りごと

どこに相談すればいいの？

6. 今後について

課題

武蔵野市ケアマネジャーのアンケート調査より

6. 今後について

最後に伝えたい

MCSにより

多職種が、平等な立場で

タイムリーに情報を共有することが出来るようになった。

しかし、ICTだけでも、ICTなしでも

今後の医療ニーズの高い高齢者を支えていくのは難しい。

アナログとICTが車の両輪のように支えあって初めて、

医療・介護・福祉の顔と心の見える連携が完成する。